

【保育実習Ⅱ】

◎子ども学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

D：子どもの豊かな育成環境を考え創造し表現する能力、及び幼児教育・保育の知識・技能を活用して実践的な援助や判断ができる能力を身に付けている。

◎この科目のシラバスにおける到達目標

1. 資格要件や事前指導の内容を踏まえ、専門的な知識・技術に基づき、保育を計画・実践することができる。(D)
2. 保育所における実践を通して、当該実習段階にふさわしい保育士としての資質・能力・技術を習得できている。(D)
3. 保育士の職業倫理に基づき、子どもの最善の利益の具体化や家庭・地域との関わりについて実践することができる。(D)
4. 評価票の内容と総合評価に照らして、当該実習段階で求められる態度・能力を発揮することができる。(D)
5. 実習での経験を記述・分析することにより、実習報告書を作成し、今後の自己課題を明確化できている。(D)

◎この科目の学修評価にあたっての目安

到達目標	A	B	C	D
1. 資格要件や事前指導の内容を踏まえ、専門的な知識・技術に基づき、保育を計画・実践することができる。(D)	資格要件や事前指導の内容を踏まえ、専門的な知識・技術に基づき、保育の計画・実践を省察・改善できる。	資格要件や事前指導の内容を踏まえ、専門的な知識・技術に基づき、保育の計画・実践の実際を獲得できる。	資格要件や事前指導の内容を踏まえ、専門的な知識・技術に基づき、保育の計画・実践を綿密に準備できる。	資格要件や事前指導の内容を踏まえ、専門的な知識・技術に基づき、保育の計画・実践の基本事項を理解できる。
2. 保育所における実践を通して、当該実習段階にふさわしい保育士としての資質・能力・技術を習得できている。(D)	保育所における実践を通して、当該実習段階にふさわしい保育士としての資質・能力・技術を向上させる程度に習得できている。	保育所における実践を通して、当該実習段階にふさわしい保育士としての資質・能力・技術を実施する程度に習得できている。	保育所における実践を通して、当該実習段階にふさわしい保育士としての資質・能力・技術を準備する程度に習得できている。	保育所における実践を通して、当該実習段階にふさわしい保育士としての資質・能力・技術を理解する程度に習得できている。
3. 保育士の職業倫理に基づき、子どもの最善の利益の具体化や家庭・地域と	保育士の職業倫理に基づき、子どもの最善の利益の具体化や家庭・	保育士の職業倫理に基づき、子どもの最善の利益の具体化や家庭・	保育士の職業倫理に基づき、子どもの最善の利益の具体化や家庭・	保育士の職業倫理に基づき、子どもの最善の利益の具体化や家庭・

の関わりについて実践することができる。(D)	地域との関わりについて実践することができる。	地域との関わりについて修得することができる。	地域との関わりについて準備することができる。	地域との関わりについて理解することができる。
4. 評価票の内容と総合評価に照らして、当該実習段階で求められる態度・能力を発揮することができる。(D)	評価票の内容と総合評価に照らして、当該実習段階で求められる態度・能力を網羅的に発揮することができる。	評価票の内容と総合評価に照らして、当該実習段階で求められる態度・能力を部分的に発揮することができる。	評価票の内容と総合評価に照らして、当該実習段階で求められる態度・能力を応用的に発揮することができる。	評価票の内容と総合評価に照らして、当該実習段階で求められる態度・能力を基本的に発揮することができる。
5. 実習での経験を記述・分析することにより、実習報告書を作成し、今後の自己課題を明確化できている。(D)	実習での経験を記述・分析することにより、実習報告書を作成し、今後の自己課題を多角的に明確化できている。	実習での経験を記述・分析することにより、実習報告書を作成し、今後の自己課題を発展的に明確化できている。	実習での経験を記述・分析することにより、実習報告書を作成し、今後の自己課題を具体的に明確化できている。	実習での経験を記述・分析することにより、実習報告書を作成し、今後の自己課題を基本的に明確化できている。